

令和4年度第1回立科町テレワーク推進会議 次第

会議概要

開催日時：令和4年10月6日（木）10時から11時まで

開催場所：立科町ふるさと交流館「芦田宿」（立科町テレワークセンター）

1 開会（企画課 竹重課長）

みなさん、こんにちは。ただいまから令和4年度第一回立科町テレワーク推進会議を開会いたします。私はしばらくの間、進行を務めます企画課長の竹重です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、開催に先立ち、小平副町長から挨拶を申し上げます。

2 あいさつ（立科町 小平副町長）

本日はお忙しいところお時間を頂戴し、また、日ごろからそれぞれのお立場からこの事業へのご支援をいただいていることに、重ねて御礼申し上げます。

ここ数年で、テレワークやワーケーションといった新しい働き方が社会全体に浸透してきました。立科町では、誰もが町のあらゆる場所でテレワークを活用した働き方ができる環境を整えて社会参加を促す「社会福祉型テレワーク」の実現に向けて、住民のみなさまと共に事業を進めているところでございます。

これまでの実績が徐々に認められ、昨年12月には阿部守一長野県知事が本事業を視察され、お褒めの言葉と力強い応援の言葉を頂戴し、この6月には、令和4年度の情報通信月間、総務省信越総合通信局長表彰を頂戴しました。これもひとえに、今日お集まりのみなさまのお力添えのおかげと感じているところです。

また、企業の働き方もここ数年で大きく変わり、働く場所の自由度が大きくなりました。このトレンドをつかみ、企業進出型テレワーク、特にワーケーションの開催誘致も大きく成長しており、数多くの企業のみなさまにお越しいただき、ワーケーションの先進事例として国からも注目を集める事業に成長しています。

今日は、住民ワーカーのディレクターやアドバイザーの方、ワーケーションの受入コンシェルジュの方から今年度前半の動きについて情報共有をさせていただく予定です。みなさまにおかれましては、現場の様子を感じていただき、今後の当町事業の発展に引き続きお力添えをお願いしたいと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（事務局：立科町 竹重企画課長）

本日まで参加のみなさまは別添、名簿の通りですのでご確認願います。会議中にご発言される際は、最初にお名前と所属を発言いただきますようお願いいたします。また、本日の会議は、後日議事録を作成して資料と共に立科町ホームページで公開します。担当から議事録の確認を後日させていただきますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

それでは、これからの議事進行は議長である副町長をお願いいたします。

(立科町 小平副町長)

それではこれから私のほうで進行をしていきますので、ご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。早速、会議事項に入りたいと思ひますが、上半期の取組み実績と課題について、この半年間での取組みの状況について、事務局の上前係長、住民ワーカ―ディレクターの齊藤さん、観光協会専務理事務の渡邊さん、事業アドバイザーの尾形さんから共有をさせていただきたいと思ひております。

今回の会議では資料だけの説明ではなく議論中心となるように、遠隔でご参加されている方についてもチャット等でお知らせいただいても、一声掛けていただいても結構ですので、遠慮なく発言をお願ひしたいと思ひます。それでは、事業全体について、まずは係長の上前から説明をさせていただきます。

(立科町 企画課 地域振興係 上前係長)

みなさまおはようございます。お忙しいところお時間頂戴しましてありがとうございます。いつもみなさまのご指導ご鞭撻頂戴している事、この場を借りまして改めて御礼申し上げる次第でございます。この会議は年に一回、二回開催しているところでございますが、前回3月の開催から半年過ぎまして現在の状況というものを、私のほうからざっと説明をさせていただいて、それぞれまた、細かいところを後ほど説明させていただければと思ひております。お手元の資料でも、画面に出ている資料でも全く同じものですので、どちらでも結構でございますのでご覧ください。

まずは、資料1をご覧ください。こちらは全体事業の構成を示した表でございます。ご覧いただきたいところは左側、まず構成と内容ですね。1として雇用創出型テレワーク、主に4つの事業領域になっている。それから下、2 企業進出型テレワークにつきましては、主におためしテレワークとワークトリップの話があるというところで内容をご理解いただけるかと思ひます。今年度取組んできた内容につきましてはこの R4 の部分です。右側の R4 の部分が今年度上半期動かしてきたところでございます。上から順にポイントだけご説明させていただきます。まずは住民ワーカ―の募集、育成についてですが、これは後ほど営業チームから詳細はあるかと思ひますけれども、こんなように3つ記載させていただいてございます。それから次、ハードソフトの育成につきましても、ちょっと手狭になってきたこのセンターがございまして、拡張工事を今年度、今進めているところでございます。他にも営業チームの活動であるとか、業務マネジメントにつきましては、昨年度同様力強く推進しているところでご理解いただければと思ひます。

企進出型テレワークにまいりますと、おためしナガノで小嶋さんという都内在住の若いデザイナーの方が立科町に半年間お越しになるという事で、月に3、4回、3日間ずつの滞在のような形で、もう既に8月頭からいらっしゃっております。大変優秀な方とお見受けしております、その方にワーカ―さん向けのデザイン研修の依頼などもこれからさせていただいてワーカ―研修も実施していくような予定で考えております。他に一番下の立科ワークトリップにつきましては、この後、渡邊さんから詳しく説明があるというところでございます。

右側まいりますと財源です。R4年度見ていただくとそれぞれの事業に大体どれくらいの予算額を確保しているかわかります。大きく変わっているところは上から2つ目、就労環境の整備の

ところで、これまで 300 万円程度だったものが今年 1,000 万円になってきております。これはこのテレワークセンターの倉庫の改修をしてワークスペースを確保するといったところで大きく金額が増えてございます。一番下、立科ワークトリップにつきましては、コロナ対応の臨時交付金などを活用しながら事業を進めているところでございます。

次のページでは、それぞれの事業内容におきまして設定した指標の状況でございます。これも後ほど説明ありますけれども、R4 年度のところを見ていただくとワーカーさんの数ですが 91 名となっています。収入額も昨年度以上のものにはなっているところ。それからクライアントさんの数、現地ディレクターの数も順調にきているかなというふうに認識をしてございます。あと、企業進出型テレワークにつきましても、利用者数も徐々に前年度以上実績で動いているところでございます。そんなところを今回ご説明させていただきました。詳細また後ほど、それぞれの担当から説明させていただきます。資料 1 について共有は、私からは以上ですので、次は斉藤さんのほうに説明を譲りたいと思います。

(立科町 営業チーム 斉藤様)

営業チームの斉藤です。私のほうから中間報告をさせていただきたいと思います。今年度の営業チームの活動方針はこちらの 3 つになります。昨年度は、テレワークセンターの活動に共感してくださる企業様を増やす事に力を入れて、オンラインセミナーの開催や SNS の発信などをおこなってきました。その結果、非常に多くの企業様に共感いただく事ができました。今年度は、共感いただいた企業様から業務を発注していただき、継続的に業務発注していただくことや、拡大して業務発注していただける事を目指して活動しています。更に業務を発注していただく企業様を獲得する為に、昨年に引き続き当事業に共感していただける企業様を増やす取組みとして、イベント参加や広報活動を継続的におこなっています。加えて業務だけがが増えても、お仕事にあたるワーカーさんが不足していたり、スキルレベルが不足している課題解決の為に、ワーカー募集やスキルチェック、業務前研修や模擬業務の実施もおこなってまいります。これらの取組みによって最終的にこちらの受注額 3,000 万円の達成を目指しています。

続いて、今年度の業務内容について簡単にご説明させていただきます。複数の企業等のみなさまから業務発注をいただいておりますが、長期的、または継続的に業務の発注をしていただいている企業様はこちらの 5 社になります。具体的な業務内容についてはこちらに記載してある通りになります。特に S 様から発注いただいている業務についてはタスク時間、また、こちらの Y 様から発注いただいている業務については作業人員の増が決定しておりまして、いずれも受注額のアップを見込んでおります。

続いて、今年度上半期の受注額について前年度上半期と比較してご説明させていただきます。一点資料に誤りがありまして、こちらです、2021 年の記載が 2022 年になります。尚、こちら 9 月分については集計中ですので見込み額となっております。月別の受注額についてはこちらのグラフの通りとなっておりますが、全体的に昨年度と比較して、グラフの青い部分が立科町なのですけれども、多くなっているかと思っております。これは KADO のお仕事を立科町に回していただくだけでなく、立科独自に受注したお仕事が増えている事を示しています。前年度は上半期受注額 899 万円、この内、立科独自の受注額が 575 万円ですと率にすると 64 パーセントでしたが、今年度

は1,131万円の内85パーセント、960万円が立科独自の受注額となっております。現在もKADOに業務支援いただいておりますが、昨年度に比べて立科が自立してきている事がこちらのグラフで分かると思います。

こちら最後になりますが、立科町の登録ワーカー数についてご説明させていただきます。こちらのグラフは登録者の推移について、左のグラフをご覧ください。黄色の線は延べ登録者数の推移を示しています。延べ92名ですが、現在74名のワーカーが登録中です。ピンクのグラフは年度別の新規登録者数を示しています。例えばこちら昨年度だけで15名の登録をいただきましたが、既に上半期だけで現在17名ご登録いただいております。これは今年町広報誌にワーカー募集の記事を掲載していただいたことや、こちらのチラシを町内全戸配布させていただいた効果が出ているのかなと思います。こちらのチラシは町民ワーカーさんに作成していただきました。年代別のワーカーの割合については、20代から60代以上の幅広いみなさまに登録していただいております。簡単ではありますが、以上で私から今年度上半期の中間報告とさせていただきます。ありがとうございました。

(立科町 企画課地域振興係 上前係長)

では、引き続きまして渡邊さんのほうからお願いします。

(信州たてしな観光協会 渡邊様)

信州たてしな観光協会の渡邊と申します。私のほうからは、企業進出型テレワークについて、特に立科 WORK TRIP の上半期の情報の共有をさせていただきます。令和4年度は現時点で27組293人の方がご利用いただいております。これは個人のワーケーションや、家族連れのワーケーション、いわゆるバケーション的なもの、フリーランサーの方とかそういったものを除いて、全てこちらで問い合わせを巻き取ったりしておこなった、企業さんが出張旅費で来ていただける形の企業合宿型のワーケーションの受入れ数です。27組293人。人泊数でいうと380人泊になっています。この293人とかその前の年の31組172人とか、こういった利用いただいていた方の中からちょっとした副産物がありまして、例えば20人来た中の一人がたまたま国立の研究法人に在籍している人だったりとか、あとその方から新たなグループを紹介いただいたりとか、非常に一般の観光軸とは違うレイヤーの方との接点を持てるのです。ワーケーションというのが功を奏して、今年2回大きなMICEの開催に繋がっています。一つは国立大学の研究機関です。これが来年、令和5年に国際会議を開催予定でいらっしゃいます。今話題のノーベル化学賞とかの候補者の方達が来ていただける事になっています。今年の7月には、国立研究法人の方達のMICEですね、ワーケーションとMICE、まあ広義のワーケーションの中にMICEというも位置づけられるのかなと思うのですけれど、こういった成果に繋がっています。

町の令和4年度の事業計画の中に、たてしな観光協会としてのロールがありまして、1 体験ツアー実施によるデータ収集と、2 コーディネーターの育成、3 広報物の制作になります。この内の2と3をご説明させていただきます。コーディネーター育成に関しては私が主に中心でやっているのですけれど、私の下に一人コーディネーターを設置させていただくように町のほうで整えていただいたので、2名体制になる事で問い合わせの巻き取りや実際に利用時の機材設置や

撤収、この作業が大分軽減されました。これは非常にありがたい事ですね。大体ワーケーションってバラバラと入ってくるのではなくて、何故か知らないですけど同じ週に2組とか、同じ日に入って同じ日に出てくのが2組3組重なる事が非常に多いのです。恐らく企業の年間の動きで、大体この日に行けるみたいなのがなんとなく業界的にあるのかなというのは感じていて、重なります。そういったときに複数体制だと非常に効率よくまわす事ができました。

1の体験ツアー実施によるデータ収集で、更に業務内容1が合宿型ワーケーション体験ツアーの企画、実施と、体験ツアー実施企業のヒアリング調査というロールがあります。これに関してはJTBさんの法人営業を主にしている部署と業務委託をさせていただきまして、簡単に言うとアンケート調査をおこなっていただいています。企業のニーズとウォンツの収集です。ホームページに問い合わせがあって最終的に成約にならなかったという事に関しては、何故うちの町が選ばれなかったのかというのをその方に直接聞くことができるのですけれど、問い合わせにまで至らない層というのにどうやってもこちらからリーチできないので、そこを埋めていただく為にJTBさんに、企業にワーケーション、あなたの会社はしていますか、もしするのだったらどのくらいの予算でどこに行きますか、みたいなアンケート調査をしていただいています。それが9月末現在、8社から来ています。アンケートを聞く事自体も目的なのですが、もう一つの目的で、アンケートをおこなうことで、立科町でワークトリップというワーケーション受入れ事業をやっているという事を、間接的に営業できる事だと思っています。それが功を奏した成果が1個ありまして、アンケート調査先の企業でM社さんとありまして、JTBさんにたまたまこのM社さんにアンケート調査に行ってもらいました。そしてたまたま同じタイミングで社員の福利厚生や幹部の定期的なオフサイトミーティング実施の為に、全国各地でそういった事ができる場所を探していた。タイミングが合いました、実際にこの社長と役員の人達が、現地視察に今年5月に来ていただきました。その際に上前さんのほうで、立科町の社会福祉型テレワークの説明をさせていただく機会も頂戴しました。そうする事で、実際に11月2日3日に、3名様でもう一回来ていただいて、町民ワーカーへお仕事を発注できる可能性をお互いに探るということになった。素晴らしい進歩だと思うのですが、これが設定されました。また、その前に6月19日から20日に、このM社さんの12名様でオフサイトミーティングやっていただきました。更に1月20日から21日は27名様で実施予定です。注目すべき点は、このM社さんが定期的に当地を利用していただく事で、当地の中で一つホテルがあって、そこをいたく気に入っていただいて法人契約まで結びつきました。法人契約をするという事は以後も頻繁に使ってくれるよという事なので、これが非常に大きな成果だったかなと思っています。もう一つが、合宿型ワーケーション体験ツアーの企画実施ですけれど、全国各地でやっているようなモニターツアーから、もうちょっと企業さんが今求めているものというのを聞き出していただいたときに、地域の課題に触れたり、今自分たちがやっている事業ドメインとは別のドメインについて触れる機会、簡単に言うと越境学習ですね、越境学習の要望がワーケーションしたい企業の中で高まっているというのを、アンケート調査を基に掴んでおります。それに対しては、地域課題解決アイデアソン、立科町はタテナソンという学生のアイデアソンイベントやっているのですけれど、さすがにあれば年に一回しかできないくらいの体力を使うものなのですけれど、もっと小さくデサイズしたものでワーケーション用に短時間でできるとか、さらっとできるようなファシリテーションとか、こちらの運営

もできるだけかからないような形で、地域の課題に触れるアイデアソンのようなワーケーションができないかなと思っています。もっと聞いていくと、地域課題に触れるというだけで満足する企業と、地域課題をヒアリングして解決したいという企業に二分化されます。単純に越境学習という枠の中にあるのですが、自分達の目線じゃないところの目線を知るだけで充分ですという方と、自社のリソース使って課題を解決したいですというところがあって、ここを上手く聞き分けています。今JTBさんとやっているのは後者のほうで、地域の課題を聞いて解決まで持っていきたいというところなので、ちょうど昨日、企画書を提出したところで、なんとか成約に繋がられますようにと思っています。関係者いたらぜひプッシュしてください。こういったような、アイデアソンを軸に観光とツーリズムに繋がっていくというのが、長野県観光機構がアイデアソンツーリズムという形で今推進していますので、ここともすごい相性がいいなと思っています。

視察や講演対応については、こちらに書いてある通りで、渡邊少なめ、上前多めなのですけれど、こういったように全国各地で取組みを先進事例として講演させていただく機会を大変多く頂戴しております。これも間接的な営業になっていて、各地でお話させていただくと確実に問い合わせが入ります。こちらは講演料とか交通費貰って、ついでに営業までしちゃえるという大変貴重な機会となっていて、先日も東京ビッグサイトでツーリズムエキスポが4年振りに開催され、観光庁の枠として私のほうでちょっとした講演とパネルディスカッションをさせていただいて、それがご縁で問い合わせも増えておりますので、こういった動きを繋げていきたいなと思います。来週も函館市から来ていただけますし、ワーケーションの受入れも1件ありますし、来月は北海道、来年は宮崎へといったような動きがあります。

最後に課題だけちょっとお伝えさせてください。一つはコワーキングスペースの必要性を強く感じております。高原エリアにはコワーキングスペースがありません。コワーキングスペースがないからこそ宿泊施設自体をコワーキングスペース化して二次移動が少ないという事の特徴の一つとして推進しているのですが、そもそもワークできるスペースを持たない小規模施設というのが少なからずあります。更にチェックイン前とチェックアウト後に他のお客さんもいる中で、そこだけ占有スペースにさせてくれみたいなのがどうしても難しいので、ワークスペース難民というのが正直生じています。ですので、こちらが送客できる宿というのがどうしても偏りが出てしまいます。ですので、コワーキングスペースというのがまず必要だなと思っています。それとは別の見方で、今後、観光地のあるべき姿としてWi-Fiはインフラ。地域側にとってはライフラインだと思っていますので、Wi-Fiで働ける環境が整っていない観光地が、観光の選択肢として選ばれないですね。家族旅行で、家族4人で旅行に来ていて、急にお父さん仕事入っちゃった、でもこの高原エリアでどこもWi-Fi繋がらないから、子供達遊びたいのに家族みんなで一回里下りるぞ、みたいな事が起きてしまうのです。なので、そういった事をサルベージする為に、高原エリアでもワークスペースを設置することで、この二つを解決できるのではないかなと。家族旅行を継続させるというのが一つ、もう一つは送客の偏りを整える事ができるというのは感じています。

もう一つ、コーディネーターをやらせていただいているのですが、コーディネーターに必要なスキルをDXすべき箇所としてはいけないというのをなんとなく感じています。私のほうで問い合わせを巻き取っているときに、決裁取れる予定表を作って、それをそのまま上司に出して

判子貰ってくださいっていうのが非常にうけているのですけれど、この予定表を作るイラストレーターの作成スキルというのがコーディネーターとして必要だと思います。もう一つはSNSやウェブサイトです。これで長野県も遅ればせながらやっと全国割りの詳細が出て来ていて、ワーケーションと非常に相性が良いのですよね。7泊まで使えて平日はクーポンが高い。であれば、そこを上手くホームページにも組み込んで営業していくというウェブサイトのスキル、イラストレーターのスキルを持った方が、コーディネーターとして一人欲しいなと思われまます。それが単純にそういうこと、スキルだけがあればいい訳ではなくて、そもそも大前提としてあくまで観光目線、おもてなしできる人、町外の人がうちの町に来るときに必要な情報を、観光目線としてお渡しできる。「今日なんかめっちゃめっちゃ寒いのですので、ちゃんと厚手の服を持ってきてくださいね」と、こういった事を言える人が、観光業者としての知というのがスキルとして必要です。もう一つは、どうしても夜朝の深夜帯の問い合わせが多いので、こういった事に対応できる時間軸の人が欲しいなというのと、後はこういったような企業と接している部分は、アナログの生身のやり取りが必要で、でも各施設の予約照合とか空き状況の連絡とかがIT化できるといいのではないかなと思っています。これで以上です。私のほうで上半期の取組み説明させていただきました。ありがとうございます。

(立科町 企画課地域振興係 上前係長)

引き続き、尾形さんのほうから資料共有をお願いいたします。

(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)

改めまして、ネットワンシステムズの尾形でございます。よろしくお願いいたします。会社とは別に総務省のアドバイザーをやらせていただいております。今日はその関連ですけれども、テレワーク広域連携会議という事を今年度からやらせていただいております。ファシリテーターを拝命しているものですから、その状況をみなさんに共有したいと思っております。先程説明のあった通り、立科町様も雇用型テレワークとして塩尻市振興公社さんと連携体制を作られています。この中で、直営と言われるように振興公社のほうにワーカーさんは登録してやっているという状況がございます。地域によって、地域に法人があったり、障がい者の方達をみているところもあるので、いろいろなパターンが発生しております。その中で、自営型のテレワークをやられている糸魚川、中津川、立科町、大町、安曇野、塩尻を含めて6つの自治体で、まず情報共有をしたいねという要望が出てきまして、そんなところを一つのメンバーとしてやってみようというのが、最初の取っ掛かりでございます。今まではどうしても、塩尻市振興公社が取りまとめや親というか、という事があって、それから各地域の方々が個別に対応していたというような形だったので、そうではなくて、それぞれの地域はそれぞれの特色を持っていて、良いところもあれば悪いところもありますので、それぞれの地域のやっている事をまずみなさんと共有しましょうと。塩尻が親で他のところは子どもというのではなくて、塩尻も含めて情報共有をしていこうと。決して、塩尻が全部上手くいっているという事でもないのです。そんなところをやっていくというのが趣旨でございます。

開催方法としては、やはりコロナ禍もありますのでオンラインの形。まあ今日みたいな感じで

す。Zoom 開催が多いのですけれども、できれば現地開催もしたいよねという事で今年は立科町さんでもやらせていただきましたし、来月は糸魚川でやらせていただくという事になっています。積極的に ICT ツールを活用していきまして、Slack や Zoom なんかを使って進めております。スケジュールは9月までやっていきまして、オンラインが3回ですね。立科町さんは7月20日にやらせていただいて、昼食は蓼科牛をみんなで食べながら情報共有しました。特に良かったと思うのは、やはり運営側の自治体の方だけではなくて、今回ディレクターやワーカーさん同士の交流というのができた事がとっても良かったという事をご意見いただいております。それはぜひ続けていきたいなど。10月28日、次は糸魚川なのですけれども、立科の方々には来ていただけるというふうにお伺いしていますので、ぜひそういった事も続けていきたいと思っております。この会議ですがとても評判よく、総務省のアドバイザーやっている関係で、総務省の本庁の方ですとか、信越総合通信局さんとか、関連のAPPLICさんもウェブ会議に参加いただいております。ご存知の通り塩尻市振興公社は、前大臣の金子総務大臣が視察に来られていて、国としては塩尻モデルというのは良いモデルだねという事が評価されています。それに付随してというか、一緒にやってらっしゃる立科町さんもある意味一緒に注目されております。という事で、上前さんも含めて、今後こういったある意味成功事例。先ほど渡邊さんと斉藤さんの発表を聞いていても、売上は伸びているし、登録者数は伸びているし、ワーケーションも上手くいっているという事で、注目はすごくされているのですね。立科町も。そういったところは、ぜひ立科町さんだけではなくて全国の自治体さんにも良いところを共有していただきたいなと思っております。実際連携している拠点はこんな形で、やはり長野県中心に、中津川や糸魚川です。人口規模もちょっとバラバラで、中津川は7万6,000人から立科町はその10分の1の7,000人ですけれども、やはり地域性というか、実際の規模感に合わせて、必ずしもコピーで上手くいくことは難しいです。やはり丹念にそこの地域の方々の課題とか考え方とか強みとかそういったところを考えながら、その土地に合ったテレワークの形みたいなものが必要じゃないかと思っています。

これが一つの成果というか、今までやってきた中の大きな課題が大きく二つあります。一つは人材育成。テレワーカーの人材育成と、後は営業です。どういうふうに仕事を取って来るかという事でいろんな議論がありまして、やはりそこに向けてどういった仕事があってどういうスキルが必要かという事を、年間通じて議論をしている。こんなところに立科町さんの意見が反映されていくとありがたいと思っております。後は、参考資料という事で他拠点が何やっているかという事をちょっと付けました。やはり成功している塩尻におきましては広報誌で特集を組んでいて、特にGIGAスクールのサポーター業務ですね。みなさんご存知の通り、小中学校にパソコンやタブレット配布されているのだけれども、それを教える方がいないというのが全国的な課題になっています。その中で塩尻のほうはテレワーカーさんがサポートしているという事とか、糸魚川ではテレワーカーさんの評判が良くて、仕事を出すだけじゃなくて株式会社DONUTSさんという企業が糸魚川にオフィスを出したという事で企業誘致に成功したという事例も出てきております。テレワーカーさんの卒業生が30人くらいDONUTSさんに就職しています。コロナワクチンの予約接種の受付とか、いろんな形で糸魚川さんもやってらっしゃるという事でございます。

あとはまだまだ始めたばかりの自治体さんもあるんで、安曇野市さんではテレワークセンターを開所して、振興公社の青山さんのお力を借りながら、年末調整の業務とか経理業務をやり始めて

いるところもあれば、中々上手くいっていない自治体も正直あります。やはりそういったことも含めて良いところ悪いところ、みんなで共有してやっていこうという事を年間通じてやっていきたいと思っています。いずれこういった地域連携がますます強くなって、人材育成や営業のところも連携する形になってくるととても面白いのではないかなと個人的には思っております。以上でございます。

(立科町 小平副町長)

ありがとうございました。それぞれの立場から上半期の取組み実績と課題について報告をさせていただきました。ご意見やご助言、また、疑問点がありましたらご発言お願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

よろしいですか。かなり取組みも進んできているようですし、課題もあるというような事でご報告をさせていただきました。また、引き続きましてみなさまからアドバイスもいただければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは続いて、(2) 令和5年度の事業の方向性について、担当のほうから説明をしていきたいと思っております。

(立科町 企画課地域振興係 上前係長)

それでは引き続き令和5年度の事業の方向性についてかいつまんで説明させていただきます。お手元の資料5をご覧ください。令和5年度事業はこれから予算策定を進めて行く段階であるのですけれども、目指す姿としてはこれまで通り社会福祉型テレワークが実装された町へというところは変えず進めていくというところでございます。先ほど、現状の課題の報告もやはりそれぞれありました。雇用創出型テレワークにつきましては、もちろんワーカー数、受注数は増えてはいるところではございますが、アクティブワーカーというふうに言っている業務に積極的に参加するワーカーが半数に留まっているという状況や、スキルレベルに大きな差が生まれているとか、ワークスペースが少なくなってきたといったことがございます。

また、企業進出型テレワークにつきましては渡邊さんからありましたけれども、受入れ施設の偏りや、人材育成っていうのは引き続き進めないといけませんし、ワークスペースはやはり確保する必要があるという話が出ておりました。それぞれの課題に向けた、解決に向けた方向性として、今考えているところざっと説明させていただきますと、雇用創出型テレワークにつきましては、ワーカーさんのスキルや意欲の状況に応じて異なる支援メニューというものを用意しておく必要があるなというふうに思っております。それが次のページに2つの軸で書かせていただいたものになります。縦軸が業務のスキル、処理能力であるとか習熟度だと思ってください。横軸が業務の参加意欲と書いていますが、参加できる程度と読み替えてもいいかと思っております。ワーカーさんの中で分布が出てきておまして、例えば参加意欲は低くてスキルも低いというところ、左下ですがここはやっぱり支援が必要なところでありボリュームゾーンになってきております。このみなさんに対しては、やっぱりリスクリングであるとかキャリアプランの作成というものを支援する必要があると感じます。その上のところ、スキルはあるけど参加意欲がない、これは意欲がないというよりかは、他のバイトや業務をしながら兼業で活躍していますので中々こちらの

業務に参加できないという状況を示しています。しかしながら、登録ワーカーとして繋ぎ止めておきたいと思っていますので、ここはコミュニティ機能を維持するようなワーカーミーティングであるとか、コミュニティを継続していく為の方法が必要だということになってきます。他にも右下、スキルは低いだけでも参加意欲はともあるよというところ。ここは明確な動機を持っている方々ですので、スキルを高めていただくような研修であるとかグループ同士での学び合いの機会を作っていく。それから右上については最も活躍いただいている方々になるわけですが、こういった方々には主体的に自分で活躍できる役割を作ってあげるという事が多分必要になってくるのだらうと思っています。このように、これまではひとつの集団として考えていたワーカーさんを、分布で分けてそれぞれのカテゴリーに応じて支援していく必要が生まれてきたと考えております。ですので、来年度はこういったところ細かに支援してくような取組みを進めていきたいと思っています。

企業進出型テレワークにつきましては、ホテルやペンションさんに満遍なく送客するというのは、やっぱり全体数を増加させる以外無いかないというふうには思っています。それから、マニュアル化で省力化を図り、受入能力を向上させるというところもあります。それから働ける場所が無く、エリア内にシェアオフィスが必要という指摘もありました。この点については簡単に説明させていただきます。2枚あとのページにプレスリリースを載せております。観光庁の補助事業についてです。渡邊さんにも大変ご尽力をいただいて、エリアとして総事業費8億7,000万円を超える補助金を獲得できました。その中で、女神湖沿いの女神湖センターの半分を改修してシェアオフィスを作る予定でございます。そこに簡単な図面を予定段階のものですが載せてあります。右側がレストランで、左側のこれまで物販スペースと事務所だったところをシェアオフィスに改装する計画で動いております。実際動き出しにもうちょっと時間が掛かるかもしれませんが、完成した暁にはみなさま方に改めてご説明、ご案内をさせていただきたいと思っています。立科ワークトリップの新しいシェアオフィス、働く場所が生まれて、より推進していける体制が整ってきているというところをご承知いただければというふうに思っております。

来年度に向けた取組み、方向性を説明させていただきました。ぜひみなさま方からご意見いただければと思っています。お返しいたします。

(立科町 小平副町長)

来年度に向けての町の取組みや方向性の説明をさせていただきました。みなさんご意見やご助言、ご質問があればご発言お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

はい、じゃあ尾形さんお願いします。

(ネットワンシステムズ株式会社 尾形様)

先程の営業チーム斉藤さんのお話があって、良い事ばかりではなくて92名中18名が退会というのが出ていたのですけれども、その中身というか、もちろんマッチングする事もあればアンマッチの部分もあると思うんですけど、どういう傾向だったのかなと差し支え無ければ教えていただけたらと思うのですが。

(立科町 小平副町長)

牧内さんお願いします。

(塩尻市振興公社 立科町ディレクター 牧内氏)

一番多いのが就職です。お子様の手が離れたことと、ここで働いた事である程度自信を付けていただいたと思うのですが、フルタイムで働きたいという方が半分くらいはいらっしゃるかなと思います。あとは転居で、長野市に行くとかちょっと遠くに引越をしてしまうというので退会されている。他はご高齢でお仕事をしないという方が1名。だからこことアンマッチなので辞めますという人は今までいないかなと思います。

(ネットワークシステムズ株式会社 尾形様)

なるほど。逆に自信を付けてという事だったので、ここを一つの良い経験として次にステップアップされたというようなイメージの方が多いいという事ですね。就職という事は。

(塩尻市振興公社 立科町ディレクター 牧内氏)

そうですね。そう思っています。

(ネットワークシステムズ株式会社 尾形様)

ありがとうございます。

(立科町 小平副町長)

他にございませんか。はい、青山さんお願いします。

(塩尻市振興公社 青山様)

塩尻市振興公社の青山です。すみません、ちょっと先にご挨拶なのですが、推進会議の構成員名簿のところに、私アドバイザーと載っているのですが、この度8月1日から塩尻市振興公社の職員になりましたので、アドバイザーではなく職員という事で引き続きよろしくお願いたいと思います。

今、非常に雇用創出型テレワークが順調にワーカーの方も増員していますし、受注額も増加しているという事でデータを示していただいてありがとうございました。今まではどちらかというと塩尻市振興公社からの受注というところから、今は独自に自立しているというので、非常に営業活動が上手くいっているところが数字で見取れるのですが、この立科町独自の受注がここまで上手くいっている要因というものがあれば教えていただければと思います。

(立科町 小平副町長)

斉藤さんでいいですか。

(立科町 営業チーム 斉藤様)

昨年度大きく活動したのがやはりイベント開催。こちらで主催して開催しました。他に多かったのが SNS 発信から事業に対して共感していただく方が多くて、そこからの問い合わせが多かったかなと思います。

(塩尻市振興公社 立科町ディレクター 牧内氏)

ちょっと補足しますといわゆる営業という形ではなくて、立科町は塩尻と比べるとワーカーさんのスキルがそこまでプロの方が多くないので、スキルで売るよりも、やはり立科町の温かさとか、ワーカーさんの真面目なところとか、ぜひ一緒に仕事しませんかという色を打ち出した結果、非常に立科町のテレワーク事業に共感いただいている企業さんからの依頼が増えたのではないかと。

今年も SNS に力を入れて、こういう人が働いているのだとか、一緒に働きたいとか、そんな形で増えてきたのではないかなと思います。

(塩尻市振興公社 青山様)

承知しました。ありがとうございます。

(立科町 小平副町長)

はい、ありがとうございます。他にオンラインで参加されている方から何かございませんか。

(ネットワンシステムズ株式会社 手塚様)

今日、私はとても久しぶりに参加させていただきました。改めて立科町さんの素晴らしい、これだけいろんな成果が出ているという事をお聞きできて、最初の頃に携わらせていただいた私としてはすごく嬉しいなと思しながらお聞きしていました。

ちょっとお聞きしたかったですけれど、先ほど上前さんから、4つのマトリックスに分けてこれからやっぱりそれぞれの人材をしっかりと育てていくんだ、みたいなお話があったかと思うのですが、具体的なところはこれから検討されていかれるのだとは思いますが、何かそこでちょっとこういうのを試してみたいとか、こういうところをやってききたいみたいな、ご検討されている事がありましたらご共有いただけたらと思ってお聞きしました。

(立科町 小平副町長)

はい、では上前さんお願いします。

(立科町 企画課地域振興係 上前係長)

手塚さんありがとうございます。考えている事、全くノープランでございまして、ぜひみなさまにご教示いただきたいなと正直にそう思っております。何か今の場でも一言何かアドバイスあれば。

(立科町 小平副町長)

どうぞよろしく願いいたします。

(ネットワンシステムズ株式会社 手塚様)

この左下のリスキリングとかキャリアプランとかって、ちょっとやる意欲とか、スキルがちょっと足りない方のお話されていたときに、実はうちの会社でも同じような事がやっぱり起きていて、私がいまちょうど人事にいるという事もあって、この辺の話をよく聞くのですね。能力はあるのだけれどもパフォーマンスが発揮できてないみたいな話をかなりいろんなところで聞いたりするので、ここの必要性って今のこの社会というか、進化が早い社会の中でとても求められている事なのだという事は、すごく実感しています。何かご支援できるようなところがあったらぜひご協力させていただきたいなと思っています。

(立科町 小平副町長)

ありがとうございます。本日参加のみなさんも、何かそのようなアドバイスがいただければぜひお願いしたいなと思います。

他に何かご意見ご質問があればお願いしたいと思いますが。よろしいですか。

(佐久地域振興局 鷹野様)

伺いたかったのはワーカーさんの関係なのですが、既にもう令和4年度実施している中では91名という実績でございまして、計画の目標では70名という数になっておりますけれども、令和5年度はこの目標自体、上方修正してくというような考え方になりますでしょうか。

(立科町 企画課地域振興係 上前係長)

正直に言うと、それが指標になり得るかというところが実はあって、登録したからオッケーではなくて、アクティブに仕事を積極的にこなしていただける方を作っていくところがとても大切な部分であります。ただ、延べ人数としての指標としては、これからまた常に増えていくものだというふうに思っていますので、今書かせていただいている70名というものは国のほうに出している地域再生計画で示している3年前に作った指標です。それが更に来年度以降の地域再生計画に反映させていくときには、上方修正していくという事にはなるかと思っております。

(佐久地域振興局 鷹野様)

承知しました。非常に多くの住民のみなさんがこういった形で参加していく中で、地域の活性化に繋がっているのだなと大変よく分かった次第です。どうもありがとうございます。

3 構成員のみなさまから

(立科町 小平副町長)

鷹野課長さんありがとうございました。他にございせんか。無ければ、次のかっこ3の構成員のみなさまからに移らせていただきます。最初に信越総合通信局情報通信部、情報通信振興室室長の新納様から、情報提供があると伺っておりますので最初をお願いをしたいと思います。

(信越総合通信局 新納様)

ありがとうございます。お時間が短い中恐縮ですが、簡単にお知らせをさせていただきます。尾形様からご紹介がありましたが、広域連携の取組みに関連するお話です。政府では11月をテレワーク月間と位置付けているのですが、信越総合通信局のイベントとして11月11日金曜日の2時から4時にオンラインイベントの開催を予定しています。塩尻市のKADOの取組みから、立科町様など独自に非常に良く展開されているみなさまの事例を管内の全自治体や企業のみなさまにお知らせするセミナーを計画しております。立科町様からは上前係長にご講演いただく予定をしております。また、立科町にワーケーションとして企業でお越しになっておりますミライト・ワン・システムズ様からも立科を選んだ理由ですとか、企業での働き方改革の取組みなどについてご講演いただく予定になっております。さらに先程、尾形様からご紹介がありました糸魚川市様からは企業誘致の取組みについてお話しいただき、株式会社DONUTS様からもご講演いただく予定をしております。最後は実際の失敗談とか、こういう課題があったという事をトークディスカッションでお話しいただき、新潟県と長野県内の自治体や企業のみなさまに何か有益な情報をご提供したいと思って企画しております。こういった事もこれから続けて、新潟県内、長野県内のテレワークを推進していきたいと思っておりますので、もしご関心あるみなさまございましたらこちらのイベントにもぜひご参加いただけたらと思います。

また、もう一枚資料付けさせていただきましたが、現在の概算要求という事で、総務省として来年度予定しているテレワーク普及展開に関する事業になります。こちらを併せてご覧いただけたらと思います。お時間少ない中ありがとうございました。信越総合通信局からは以上です。

4 その他

(立科町 小平副町長)

はい、新納室長様ありがとうございました。また、ぜひみなさんこのセミナーに参加をしていただければと思っております。他に今日参加のみなさんで、共有したい情報があればご提供いただければと思っておりますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは続きまして、4のその他に入りたいと思います。事務局や参加されているみなさんから何かありましたらお願いをいたします。よろしいですか。

特に無いようですので、貴重な時間ありがとうございました。これで本日の協議を終了とさせていただきます。議事進行を司会にお返しさせていただきます。

(事務局：立科町 竹重企画課長)

1時間にわたりご協議いただきありがとうございました。みなさまには引き続きこの事業にご支援をいただければ幸いに存じます。

ただいまを持ちまして令和4年度第1回立科町テレワーク推進会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。